

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月29日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21390597

研究課題名（和文） 協働アクションリサーチによる地域看護活動の評価モデルの開発

研究課題名（英文） Development of evaluation model for community health nursing activities by collaborative action research

研究代表者

村嶋 幸代 (MURASHIMA SACHIYO)

東京大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：60123204

研究成果の概要（和文）：大学院と地域保健機関との協働により、地域風土・文化に応じた保健師による地域看護活動の評価方法を開発し、その後の新たな看護活動を効果的に行うための方法論を開発することを目的とした。各自治体内の小地域ごとに、地域の文化・風土に応じた地域の健康課題の背景要因や保健事業の浸透度に差異があることが明らかになった。保健師は、地域の差異や対象集団の特徴に応じた支援を地域住民に対して行っていることも示された。これらの結果から、地域の文化・風土に応じた保健師による地域看護活動の展開方法と見直しの方向性を提案できた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop the evaluation model for community health nursing activities depending on climate and culture by collaborative action research between graduate school and community health organizations. The study revealed that each region in the local government had underlying reason for health issues or various level of involvement in health services depending on climate and culture of the region. Public health nurses (PHNs) had provided support to residents in the community according to the deference of each region or characteristics of each aggregate. The methodology for maintenance and facilitation of community health nursing activities by PHNs and the direction in review these activities were suggested.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2010年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2011年度	3,200,000	960,000	4,160,000
総計	9,700,000	2,910,000	12,610,000

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：地域・老年看護学

キーワード：(地域看護学、アクションリサーチ、保健師、地域風土・文化、生活習慣病予防、地域診断、継続的家庭訪問、修士課程保健師コース)

1. 研究開始当初の背景

保健師による地域看護活動は、これまで明確な支援プロセスが見えにくく、評価が困難であると指摘されてきた。その理由は、地域看護活動には、地域風土・文化に応じた健康

問題に対処するための介入・評価方法が必要であり、個人だけでなく集団、地域のシステムにも働きかける必要があるためである。この特徴から、地域看護活動の評価に関する学術研究は、在宅ケアに関するものが多く、

保健師活動の評価に関する研究は、質的研究に限られてきた。例えば、活動を行う地域看護職や支援対象者に対するインタビュー、観察による質的研究が試みられてきたが、昨今の行政評価で求められる客観性や、Evidenced-based Public Health の観点からは、これらの手法による研究だけでは不十分である。地域看護活動を客観的に評価し、継続して積み上げていくためには、質的研究による定性的評価だけでなく、疫学研究、準実験研究等の量的研究手法を組み合わせ、地域内の文化や個々人の健康状態の変化を考慮しながら評価していく必要がある。

一方、地域看護活動を担う地域保健機関には自治体が多く、昨今、行政評価の観点から活動を客観的に評価することが求められている。しかし、財政面での効率化や人員削減等に伴い、評価・研究を行うための経費・人材面で限界があるという意見も聞かれている。

研究代表者は、平成 18 年度より、大学院の修士課程で「保健師」の能力を向上させるプログラムを開始した。「保健師」を養成するコースを開設し、2 年間に渡り、大学院教育カリキュラムの一環として地域保健機関と協働し、実習を通して地域看護活動の評価を行ってきた。大学院における保健師能力の育成は、国内では初めてであり、大学における通常の保健師養成での実習に比べ、長期間でかつ研究・評価の視点を強化した実習を行えることが特長である。

米国では、既にこのような専門職を養成する大学院での実習、特に、地域に根ざした教育 (community-based program)、地域に焦点を当てた教育 (community-focused program) が多くの大学院で行われている。米国看護学教育者協会 (American Association of Nursing Educators: AANC) により教育基準も提示されている。しかし、わが国では、看護学の大学院教育が始まってからの期間が短く、その数が近年増加している最中である。地域との協働による地域看護活動を、費用対効果を含めて、エビデンスを提示しながら、評価する試みも緒に付いたばかりである。

また、数少ない大学院では、これまでは研究者養成に光が当てられてきたため、地域保健の場で高度実践者として働く人材の養成方法は未確立である。したがって、大学院と地域保健機関が協働し、実践と研究をリンクさせながら地域看護活動の評価を行い、事業を次のステップへ向けて改善していくための方法を開発する必要がある。この開発は、これまで客観性・エビデンスレベルの点で評価し難かった地域看護活動を、地域ニーズに合った形で客観的に評価する新たな手法を確立することに寄与する新しい研究枠組みを提案できる。

2. 研究の目的

本研究では、大学院と地域保健機関との協働により、地域風土・文化に応じた保健師による地域看護活動の評価方法を開発し、その後の新たな看護活動を効果的に行うための方法論を開発することを目的とした。

研究期間内に、以下を明らかにすることを目的とした。

(1) 大学院と地域保健機関で協働して、教育・実践・研究を同時に行いながら、地域ニーズに基づく看護活動を評価し、次の改善に向けた行動を提案するための方法論を開発する。

(2) (1) で開発した方法の試行と見直しを複数地域で実施することにより、評価モデルを確立し提示する。

3. 研究の方法

熟練保健師が率先して開発してきた事業や先駆的に実施してきた地域看護活動を取り上げた、市町の地域保健機関と協働し、各地で 3 ヶ所程度の小地区を選定し、小地区単位でその実行度や現状 (事業の浸透度) の評価を試行した。その差異が生じてきた要因を考察すると共に、小地区の特徴に応じた保健活動の展開方法について検討した。

フィールド調査を重視し、地域保健機関と協働して、研究と実践を平行して行うアクションリサーチの手法を用いた。

具体的には、既存資料の分析、調査地域での対象住民の家庭訪問・面接、保健師・住民・キーパーソン等へのヒアリング、地区踏査、マッピング、事業への参加、質問紙・インタビュー調査、医療費・健診データ等の統計分析を行った。

分析の際は、小集団の健康状態のみならず、文化や人々の関心事等を選定し、①働きかけてきたプロセス (プロセス変数)、②人口構成・文化等の小地域の特徴 (構造変数)、③事業の定着度、人々の実行度、健康問題の改善度等 (成果変数) に着目して評価した。質的分析と量的分析を組み合わせ分析し、生活習慣病予防に関しては、検診結果の分析と医療費の経済的分析を行った。

各地での報告会と合同報告会を開催し、調査結果は地域保健機関、住民、関係者などに報告した。

4. 研究成果

平成 21 年度は、関東地方の 1 市、都内特別区 1 ヶ所、九州地方の 1 町と共同し、高齢者の介護予防をテーマに、a. 小地域の地区特性と介護予防教室への参加状況および運営方法との関連、b. 保健師の高齢者筋トレグループ活動に対する保健師による自主化および継続支援、c. 本庁保健師による介護保険事

業に関する地域看護管理の体系と方策、を明らかにした。また、関西地方の1町と協働し、成人の慢性腎臓病予防をテーマに、a. 小地域の食生活の特徴と慢性腎臓病患者・ハイリスク者の割合との関連、b. 小地域の地区特性と生活習慣病予防教室への参加状況との関連、を明らかにした。さらに、関東地方の政令市内の1区と共同し、地域看護管理の視点から、区内の結核の現状を結核患者の就業状況と早期発見に焦点をあてて分析し、対策を提言した。都内特別区1カ所との共同により、a. 乳幼児の母親を対象とする育児グループの活動と特徴、b. 双胎児を育てる母親同士のピアサポートおよび育児グループによるサポートの効果について示した。

平成22年度は、都内特別区2カ所と共同し、母子保健をテーマに、a. 乳児を育てる母親の交流状況と育児不安、b. 乳幼児の母親を対象とする3種類の育児グループの活動および保健師の支援、を明らかにした。さらに、中部地方の1市および保健所管轄地域1カ所と共同し、成人の生活習慣病予防をテーマに、a. 小地域の食生活の特徴と生活習慣病との関連、b. 特定健康診査等生活習慣病予防事業に関する市町村比較と保健所保健師の支援を明らかにした。

調査結果は、各地で報告会を開催し、地域保健機関、住民、関係者などに報告した。

これらにより、各自治体内の小地域ごとに、地域の文化・風土に応じた地域の健康課題と事業の浸透度や差異の背景、保健師が地域の差異や対象集団の特徴に応じた支援を行っていることが明らかとなり、地域の文化・風土に応じた保健師による地域看護活動の展開方法と見直しの方向性を提案できた。

平成23年度は、九州地方の1町および保健所管轄地域1カ所と共同し、成人の生活習慣病予防をテーマに、a. 小地域生活習慣病ハイリスク者の分布の差異と食生活との関連、b. 特定健康診査等生活習慣病予防事業に関する市町村比較と保健所保健師としての評価手法を明らかにした。調査結果は、各地で報告会を開催し、町長、地域保健機関の保健師等職員、住民、関係者などに報告した。最終年度のまとめとして、①3年間の調査経過資料、結果、報告書の分析・統合、②3年間の共同研究者へのフォーカスグループインタビューの実施により、地域保健機関との協働による地域看護活動の評価モデル、地域特性に応じた保健活動展開を目指した地域診断方法を開発した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計6件)

- ① 村嶋幸代、修士課程における保健師教育の必要性和実際、保健の科学、査読無、

52巻、2010、pp.234-240

- ② 川本晃子、河村真紀代、野口久美子、有本梓、田口敦子、永田智子、村嶋幸代、私の行なった修士課程での保健師実習

(1) M町における地域診断・活動展開実習を通じて学んだこと—M町で保健師が住民と育てた介護予防教室を通して地域特性に合わせた支援を考える—、保健の科学、査読無、52巻、2010、pp.241-245

- ③ 山名由希子、石川志麻、有本梓、田口敦子、永田智子、村嶋幸代、私の行なった修士課程での保健師実習(2)—O市における地域診断・活動展開実習 保健師の高齢者筋トレグループ活動に対する自主化および継続支援、保健の科学、査読無、52巻、2010、pp.246-250

- ④ 山田千佳、野田美恵、有本梓、田口敦子、永田智子、村嶋幸代、私の行なった修士課程での保健師実習(3)潜在的な健康問題の実態をとらえ、地区特性に応じた対策を考える、保健の科学、査読無、52巻、2010、pp.251-256

- ⑤ 村嶋幸代、修士課程における保健師教育—必要性和実現への道筋—、保健の科学、査読無、51巻、2009、pp.663-670

- ⑥ 村嶋幸代、専門職の目でネットワークを生み出す保健師その方法論が人々の生を支える、地域保健、査読無、40巻、2009、pp.46-51

[学会発表] (計13件)

- ① 村嶋幸代、有本梓、永田智子、田口敦子、地域特性に応じた保健活動展開を目指した地域診断方法の開発：東大修士課程の実習から、第70回日本公衆衛生学会総会、2011年10月20日、秋田アトリオン(秋田県)

- ② 有本梓、田口敦子、永田智子、村嶋幸代、継続的家庭訪問実習による学生の学び：東大修士課程保健師コースの実習から、第70回日本公衆衛生学会総会、2011年10月20日、秋田アトリオン(秋田県)

- ③ 大橋由基、河合妙子、有本梓、村嶋幸代、生活習慣病予防のための市町村ヒアリングを通じた保健所保健師の取り組み、第70回日本公衆衛生学会総会、2011年10月20日、秋田アトリオン(秋田県)

- ④ 尾形玲美、有本梓、村嶋幸代、母子グループの特徴と地域とのつながりから見

た保健師によるグループ支援、第 70 回日本公衆衛生学会総会、2011 年 10 月 19 日、秋田アトリオン（秋田県）

- ⑤ 岩崎りほ、宮島美貴、有本梓、村嶋幸代、若い母親を対象とする育児グループへの初回参加時の母親の状況、第 70 回日本公衆衛生学会総会、2011 年 10 月 19 日、秋田アトリオン（秋田県）
- ⑥ Kawamoto A, Arimoto A, Taguchi A, Nagata S, Murashima S. Master course practice on 'community health nursing diagnoses and developing activity' 1: The meanings of the community-based care prevention exercise activity for the elderly and the suggestion for PHNs' strategies based on characteristics of each community. 138th American Public Health Association Annual Meeting, 2010 年 11 月 6 日、コロラドコンベンションセンター（アメリカ合衆国）
- ⑦ Shimamura T, Taguchi A, Murashima S. Medication adherence and public health nurses' support for patients with tuberculosis in Japan: In-depth interview. 138th American Public Health Association Annual Meeting, 2010 年 11 月 6 日、コロラドコンベンションセンター（アメリカ合衆国）
- ⑧ Arimoto A, Ogata R, Murashima S. Case management by public health nurses in an effort to prevent child abuse and neglect in Japan: Providing support to mothers and children, 138th American Public Health Association Annual Meeting, 2010 年 11 月 6 日、コロラドコンベンションセンター（アメリカ合衆国）
- ⑨ Ogata R, Arimoto A, Murashima S. Case management by public health nurses in an effort to prevent child abuse and neglect: Collaboration with nursery school staff, 138th American Public Health Association Annual Meeting, 2010 年 11 月 6 日、コロラドコンベンションセンター（アメリカ合衆国）
- ⑩ 山名由希子、有本梓、田口敦子、永田智子、村嶋幸代、Y 市 A 区における結核の現状と対策－結核患者の就業状況と早期発見に焦点をあてて、第 69 回日本公

衆衛生学会総会、2010 年 10 月 29 日、東京国際フォーラム(東京都)

- ⑪ 大橋由基、尾形玲美、有本梓、田口敦子、永田智子、村嶋幸代、東京大学大学院修士課程「保健師コース」での地域診断・活動展開実習、第 69 回日本公衆衛生学会総会、2010 年 10 月 27 日、東京国際フォーラム(東京都)
- ⑫ 川本晃子、山名由希子、山田千佳、有本梓、田口敦子、永田智子、村嶋幸代、東京大学大学院修士課程「保健師コース」での地域診断・活動展開実習、第 68 回日本公衆衛生学会総会、2009 年 10 月 22 日、奈良県文化会館（奈良県奈良市）
- ⑬ Murashima S, Nagata S, Taguchi A, Arimoto A, Outcomes of the Education of Public Health Nurses in Masters' Course Program at the University of Tokyo, Japan. The 4th international conference on community health nursing research, 2009 年 8 月 18 日、Adelaide Convention Centre（オーストラリア）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村嶋 幸代 (MURASHIMA SACHIYO)
東京大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：60123204

(2) 研究分担者

永田 智子 (NAGATA SATOKO)
東京大学・大学院医学系研究科・講師
研究者番号：80323616

田口 敦子 (TAGUCHI ATSUKO)
東京大学・大学院医学系研究科・助教
研究者番号：70359636

有本 梓 (ARIMOTO AZUSA)
東京大学・大学院医学系研究科・助教
研究者番号：90451765

(3) 連携研究者

なし